

【福島県景気動向指数】

— 2019年12月分（2020年2月26日公表） —
（福島県企画調整部 統計課調べ）

1 概 括

12月の景気動向指数（CI：コンポジット・インデックス、2010年=100）は、先行指数83.8ポイント、一致指数78.3ポイント、遅行指数103.6ポイントとなった。

先行指数は、前月（85.7ポイント）を1.9ポイント下回り、3カ月連続の下降となった。

一致指数は、前月（79.3ポイント）を1.0ポイント下回り、3カ月連続の下降となった。

遅行指数は、前月（101.3ポイント）を2.3ポイント上回り、2カ月連続の上昇となった。

【景気動向指数について】

景気動向指数には、DI（ディフュージョン・インデックス）とCI（コンポジット・インデックス）があります。DIは構成する指標のうち、3カ月前の値に比べ改善している指標の割合を算出することで景気の各経済部門への波及・浸透度を主に測定します。一方、CIは指標の動きを合成することで景気変動の大きさやテンポ（量感）を主に測定するものです。DIでは景気の変化した割合を示すが量感は計測できないのに対し、CIでは景気の山の高さや拡張の勢いなど量感を計測することができます。いわば「DIは変化の方向性を示し、CIは変化の大きさを示すもの」です。

2 一致指数の動向

寄与度をみると、生産財出荷指数が5カ月連続のマイナス、所定外労働時間指数が3カ月連続のマイナス、雇用保険受給者実人員が2カ月連続のマイナス、有効求人倍率、百貨店・スーパー販売額が2カ月振りのマイナスであった。

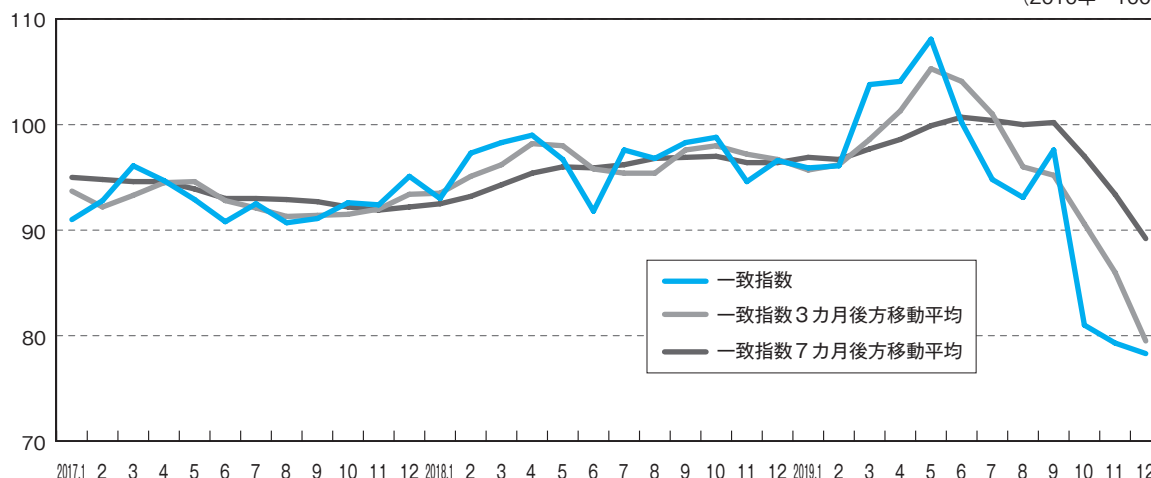
一方、鉱工業生産指数、最終需要財出荷指数が3カ月振りのプラス、建築着工床面積（鉱工業）が2カ月振りのプラス、手形交換金額（1枚当たり）が2カ月連続のプラスであった。

内訳をみると、雇用保険受給者実人員がマイナス2.04ポイント、百貨店・スーパー販売額がマイナス1.00ポイント、生産財出荷指数がマイナス0.59ポイント、所定外労働時間指数がマイナス0.36ポイント、有効求人倍率がマイナス0.32ポイントで、これらの指標の動きが下降に寄与した。

3 CI一致系列の推移

＜福島県景気動向指数 CI一致系列の推移＞

(2010年=100)



(資料：福島県企画調整部統計課)

(注) 「3カ月後方移動平均」とは、今月値から過去3カ月の平均値を、「7カ月後方移動平均」とは、今月値から過去7カ月の平均値を指します。

(※「福島県景気動向指数」は3カ月ごとに掲載いたします。)